

# 『新仏教』を支えた人々

## The Supporters of the "New Buddhism" in Meiji Japan

三浦節夫\*

MIURA Setuo

### 要旨

明治後期に仏教清徒同志会から提唱された「新仏教」運動は、その後、新仏教徒同志会と改名して、当時の日本社会の思想に大きな影響を与えた歴史的な運動である。この活動の中心は雑誌『新仏教』の刊行であり、ここに様々な主張を掲載して、時代を批判的に捉えた点に特徴がある。本稿は、この『新仏教』の目次などを分析して、この運動がどのような人々によって支えられたのか、これを統計的な観点から解明したものである。

キーワード：『新仏教』、仏教清徒同志会、新仏教徒同志会、明治の仏教運動

### 1 雑誌『新仏教』

明治後期の新仏教運動に関する歴史的・思想的な位置づけは、吉田久一氏をはじめとする近代仏教史などの研究者によって進められ、その研究は現在も改めて行なわれている。そのため、本稿では、歴史的・思想的なことはそれらの研究に譲り、これまでの研究と違った視点、すなわち、雑誌の目次を統計的に分析して、『新仏教』を支えた人々を明らかにしようと試みたものである。

雑誌『新仏教』は、明治33（1900）年7月1日に、仏教清徒同志会から創刊された。仏教清徒同志会の結成は明治32（1899）年2月であるから、一年半余りのちに刊行されたものである。同会は明治36（1931）年3月に、新仏教徒同志会と改名し、誌名を名称に位置づけている。

月刊誌である『新仏教』は、明治33（1900）年7月から大正4（1915）年8月まで、15年2ヵ月にわたり発行されている。延べの年数は16年となり、年を表示する巻数も第16巻までである。月刊の号数は、1回の臨時増刊号（第2巻5号）を除いて、182号になる。このうち、発売禁止になったものは、第11巻9号、第14巻10号、第15巻5号である<sup>(1)</sup>。

文末の第1表は、『新仏教』の巻号別のページ数である。182号にわたる本文の合計は、15564ページで、1号の平均は86ページである。この合計数に、臨時増刊号と付録を加えると、16188ページとなる。表のように、『新仏教』という月刊誌は毎号同じページ数ではなく、号ごとのページ数には変

---

\* 東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 Toyo Univ. Faculty of Human Life Design  
連絡先：〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1

化がみられる。大まかにみると、第1巻から第3巻までの3年間は50ページ台であり、その後、70～90ページ台が続き、第10巻から第13巻の4年間は100ページ前後に拡大されている。10ページごとの統計を取ってみると、もっとも多いのが80ページ台の52冊（29%、少数第一位四捨五入、以下同じ）、つぎが90ページ台の30冊（17%）、100ページ台が28冊（15%）、50ページ台が25冊（14%）、70ページ台が24冊（13%）などとなっている。70～100ページ台を合計すると、全号数の70%を超えるので、主な号別のページはこの規模であるといえる。ページ数の最大は、10周年記念号の第11巻7号の274ページ、つぎに多いのが終刊となった年の第16巻1号の162ページであり、最小は第2巻4号の44ページ、第1巻5号の48ページである（臨時増刊号は6頁）。

仏教清徒同志会（新仏教徒同志会）の活動には、のちに講演会が加わるが、主たる活動はこの『新仏教』という月刊誌による論説の展開であり、これによって歴史的・思想的な業績を残した。この月刊誌の編集長は高島米峰である。高島は『高嶋米峰自叙伝』（昭和25年、学風書院）の「新仏教運動の回顧」で、この月刊誌の執筆者たちについて、こう書いている。

「誰に原稿を頼んでも、一銭の原稿料を拂つたこともなく、会員一同、勿論手弁当で働くのであつて、十五ヶ年間、誰に謝金を呈したこともなく、誰から謝金を貰つたこともない。……会外の先輩や友人が、よくも奉仕して呉れたものだと思ふ。」<sup>(2)</sup>

この高島の回顧によれば、仏教清徒同志会として発足した時の会員は、渡辺海旭、加藤玄智、田中治六、高島米峰、安藤弘、境野黄洋、杉村楚人冠の7人である。その後、新仏教徒同志会と改名した頃には、「有力なる会員が次第に増加し、新仏教編輯員として会の幹部に列するものの中に、伊藤左千夫、融道玄、加藤咄堂、結城素明、毛利柴庵等の諸君を加えること」<sup>(3)</sup>になったという。

これらの人々が会員となり、『新仏教』を発行し続けたのであるが、会員や運営について、「同志会の役員は選挙によるもので、会長などという上下の区別もなく、中心人物の黄洋や米峰も事務折衝者にすぎない。哲学館（現在の東洋大学——筆者注）の出身者が比較的多かったが、宗門大学や帝大の出身者もあり、特に学派をつくるようなこともしなかった。」<sup>(4)</sup>といわれている。

高島が述べたように、雑誌『新仏教』は会員と会外の人々でつくられたものである。その人々を具体的に明らかにするためには、号数で183号、本文や付録の合計で16000余ページの構成を分析しなければならない。幸い、『『新仏教』論説集 補遺』（永田文晶堂、昭和57年）に、「『新仏教』総目次」と「執筆者索引」があり、これを総合して分析することによって、『新仏教』を支えた人々を明らかにすることができる。

183号にわたる『新仏教』の目次は5464件あり、1件の中に複数の執筆者があるので、これを分けると5661件になる。この数は掲載回数であつて、論文・記事の合計数ではない（連載ものがある）。執筆者名をみると、本名、号、ペンネームなどが多数に及んでいる。そのため、これを前掲書の「執筆者索引」で個人別に統合した（但し、この「執筆者索引」には高島平三郎→高島米峰などいくつかの誤認があり、これを訂正した。また「総目次」には誤植と思われるものもあったが、そのままにして統合しなかった）。

このようにして、『新仏教』の執筆者を明らかにしようとしたが、個人・団体などで統合できたものと、ペンネームのままに統合できないものがあり、この2つを合計すると、執筆者数は1254人になる（この数は、今回の集計による最大値であり、今後、多くのペンネームなどが特定できれば、人

数はさらに少なくなるということに留意されたい)。これをもとに、『新仏教』との関係を個人別に明らかにするために、掲載回数を集計した。この結果を掲載数順にまとめたものが、文末の第2表の『新仏教』の執筆者別掲載回数である。

第2表をみると、もっとも掲載回数が多い第1位は、創刊から編集長をつとめていた高島米峰で565回、1号あたりの単純平均で3.1回になる。第2位は、短歌などを発表し編集にもあたっていた林古溪で329回、1号あたりで1.8回である。第三位は、『新仏教』の代表者として知られる境野黄洋で167回、1号あたり0.9回である。100回以上の執筆者まで記すと、第4位は田中我観の130回、第5位は杉村楚人冠の114回、第6位は川村五峰の112回である。これに続くのが、井上秀天の87回、橘恵勝の75回である。

先に述べたように、182号にわたるこの月刊誌の執筆者数は、単純にみて1200余りに達している。これらの多数回の執筆者以外に、少数回の人々がいるので、全数は1200人を超えているのである。掲載回数別にみると、60回台は4人、50回台は2人、40回台は4人、30回台は4人で、合わせて14人である。それ以下になると、人数は増加し、20回台は14人、10回台は44人となる。もっとも人数の多いのは、10回未満で、9回が7人、8回が12人、7回が6人、6回が21人、5回が32人、4回が40人、3回が78人、2回が140人、1回が836人である。1～2回の合計は976人で、執筆者数の78%を占めている。このように、『新仏教』は多数回にわたり一部の人が執筆したものと、少数回の多くの人々によって支えられていることが、第2表から読み取れる。

仏教清徒同志会（新仏教徒同志会）による「新仏教運動」は、近代日本仏教の形成に歴史的思想的な役割を果たした。その中心となった雑誌『新仏教』は、広範囲にわたる人々に支えられていたこともあって、延べ16年間にわたって発行することが可能になったと考えられる。

それとともに、『新仏教』を月刊で発行し続けた中心者がいた。その人々は青年たちであったといわれる。これらの掲載回数の多い人々について、第2表に従って、つぎにその略歴を紹介しておこう（この略歴は、いくつかの辞典からの引用である。その中には『新仏教』との関係が含まれていないものもあったので、割愛した部分もある。〔 〕は筆者の註である）。

## 2 主に『新仏教』を支えた人々の略歴

**高島米峰**〔たかしま べいほう 大円・米峰 明治8・1875～昭和9・1949〕

東洋大学学長。新潟県の出身。高島宗明の長男に生まれた。本名は大円。明治二十九年に哲学館を卒業。その後は、新聞記者、中学校教師を経て、同三十四年に、東京小石川に鶏声堂書店を開き、また丙午出版社を創立した。この頃には仏教清徒同志会（のちの新仏教徒同志会）を結成した。同三十三年に「新仏教」を発行して約十五年間にわたって仏教界に新風を吹き込んだ。さらに、禁酒禁煙や公娼廃止の運動にも従事した。そして、昭和十八年には、東洋大学学長に就任した。寂年七十五歳。著書には「一休和尚伝」「米峰回顧録」「高島米峰自叙伝」ほかがある。<sup>(5)</sup>

**林古溪**〔はやし こけい 竹次郎・竹二郎・獮・獮庵 明治8・1875～昭和22・1947〕

歌人、漢詩人、国漢文学者。本名竹次郎。明治八年七月十五日東京神田に旧姫路藩士林三郎（旧姓

名・永田三象)の二男として生る。父没後の少年時池上本門寺に入り修行した。後寺門を出て哲学館(現東洋大学)に学び、三十二年卒業。以降二十数年私立京北中学校につとめた。昭和三年(一九二八)松山高等学校講師、同八年帰京し立正大学教授となる。十九年退職。明治三十年代の新仏教徒同志会の運動に活躍し、『新仏教』の編集に従った。積清潭の淡社に属し詩誌『漢詩』を編集し、晩年自ら清白詩会を開き『清白詩艸』を刊行した。一方大正八年(一九一九)ごろから古溪歌会を起し歌詩『わがうた』を主宰し、最晩年まで続いた。若い日の歌曲『浜辺の歌』(成田為三作曲)は著名。著書に『万葉集外来文学考』『懐風藻新註』(昭和三三、没後の刊)、歌集『わがうた千首 一』など多数がある。昭和二十二年二月二十日疎開先の浦和市で没。池上永寿院に葬られた。<sup>(6)</sup>

**境野黄洋**〔さかいの こうよう 哲・哲海・黄洋 明治4・1871—昭和8・1933〕

明治～昭和時代の仏教史学者。明治四年(一八七一)～昭和八年(一九三三)十一月一日。本名は哲。諱は哲海。号は黄洋。生まれは宮城県で、境野功敏の長男。宮城中学校から仙台の曹洞宗専門支校へ進んで仏教を学ぶ。一八八九年井上円了の「真理金針」、「仏教活論序論」に共感して井上円了の哲学館へ入学。九四年仏教革新を目指して古河老川らと経緯会結成に参加。機関紙「仏教」で論説に筆をふるう。九九年哲学館講師。同年経緯会が解散、革新仏教徒の思想運動が仏教清徒同志会に受け継がれ、境野は同会の中心として機関紙「新仏教」を率いて活躍した。一九一八年母校東洋大学長に就任するが、二三年構内事件で責任を追求されて解職、その後は駒沢大学に仏教史学担当の教授として迎えられた。著書に「支那仏教史研究」「支那仏教精史」などがある。<sup>(7)</sup>

**田中治六**〔たなか じろく 治六・我観・我観小仏 明治2・1869～〕

明治二年に長野県に生まれる。明治二八年に井上円了の哲学館に入学し、その後、明治三〇年から昭和九年まで、哲学館の予科教員、東洋大学の講師・教授をつとめる。同校における教科目は、英語、心理学、哲学、教育学などである。明治三二年の仏教清徒同志会の発足に参加し、機関紙『新仏教』に積極的に論説を発表する。著書に哲学館講義録「心理学史」「西洋近世哲学者略伝」、『西洋近世哲学史補遺』『哲学名義考』『我観哲学』などがある。<sup>(8)</sup>

**杉村楚人冠**〔すぎむら そじんかん 広太郎、縦横、無懐・忘機生 明治5・1872～昭和20・1945〕

新聞人、随筆家。本名広太郎。明治五年八月二十八日和歌山に生る。英吉利法律学校(中央大学の前身)、国民英学会をへて、同二十五年和歌山新報主筆。翌二十六年再び上京し『宗教』『仏教』『反省雑誌』などの編集に参加しながら仏教改革運動を展開、また三十一年以来社会主義研究会の会員として幸徳秋水、堺枯川、片山潜らと相識った。同三十二年アメリカ公使館通訳となり、三十六年東京朝日に入社、外電係りとなるかたわら論説を執筆した。その後数回欧米に特派され、軽妙な通信が読者に歓迎された。同四十四年その献言により、わが国新聞社最初の調査部が設置され、初代部長となった。大正八年(一九一九)新聞縮刷版発行、十一年アサヒグラフ創刊、十四年記事審査部新設なども、その提案による。同八年から昭和十年まで監査役、のちに相談役となったが、執筆生活は続けた。機智、皮肉、ユーモアに富むりべらるな文章であった。著者に『大英遊記』『最近新聞紙学』『うるさき人々』『湖畔吟』『楚人冠全集』全十八巻など。昭和二十年十月三日没。<sup>(9)</sup>



**井上秀天**〔いのうえ しゅうてん 秀夫・秀天 明治13・1880～昭和20・1945〕

明治十三年に鳥取県に生まれる。本名は秀夫。小学校卒業後に家の没落にあい、倉吉市の曹洞宗寺院に預けられて育った。漢学塾とアメリカ人宣教師から英語を学ぶ。同二三年に米子中学に入学し、卒業後して同二八年に上京し、曹洞宗大学林に入学し陸鉞巖から印度哲学を学ぶ。翌年鳥取・景福寺に移り、住職陸鉞巖を補佐する。同三〇年に陸鉞巖に同行し、台湾・中国南部・セイロン・インド・ビルマを旅行する。同三六年に『印度事情』を刊行した。同三七年の日露戦争の勃発とともに教団の命により従軍布教師となる。戦中に結核にかかり、その後療養する。同三九年に新仏教徒同志会に入会し、『新仏教』へ寄稿した。神戸の須磨に移り住んで神戸女学院で講師となる。社会主義者との交流があり、同四三年の「大逆事件」の重要参考人として取調べを受け、それに対する教団の対応から曹洞宗の僧侶としての歩みを断念する。大正に入り結婚して、英国・米国領事館に勤務した。この間に、大使や領事が書いた日本仏教や明治期のキリスト教の弾圧に関するものを翻訳した。『仏教文化』（のち『東洋文化』）を発行する。昭和一六年の日米の開戦にともないスパイ容疑で連行された。同二〇年の米軍の神戸の空襲により被弾して死亡。六五歳。著書には『禅の現代的批判』『禅の文化的価値』『大乘仏教の新研究』『碧巖録新講話』などがある。<sup>(10)</sup>

**加藤咄堂**〔かとう とつどう 熊一郎・咄堂 明治三・一八七〇～昭和二四・一九四九〕

仏教学者、著述家、教化運動家。本名熊一郎。咄堂は号。京都府亀岡に生る。旧亀山藩士加藤弘人の長子。幼時から父に漢学を習い、長じて英吉利法律学校で法律を学んだが、のち大槻如電の門に入って島田番根、大内青巒らと交わり、仏教学を修めた。以来、社会教化を終生の念願とし、中央教化団体連合会理事、社団法人上宮教会会長の要職にありながら全国各地を講演行脚し、雑誌『新修養』（のち『精神』と改題）『こころ』を発刊主宰、さらに数多くの著述によって社会教化に尽くした。この間、社会教化功労者として大正十年（一九二九）宮内省より銀杯を贈られ、昭和三年（一九二八）には文部省から表彰された。かたわら東洋大学、日本大学、曹洞宗大学などで教鞭を執った。主著『日本宗教風物志』『日本風俗志』『修養論』『運命論』『菜根譚談話』『維摩經講座』『大死生観』『碧巖録大講座』十二巻、『修養大講座』十二巻など。昭和二十四年四月三日没。<sup>(11)</sup>

**渡辺海旭**〔わたなべ かいきょく 又次郎・恵美・恵見忍成・僧壺月・鐵肝 明治5・1872～昭和8・1933〕

浄土宗。仏教学者。教育者。明治五年、東京浅草田原町の渡辺家に生まれた。十四歳のとき、深川西光寺の瑞山海定について出家、得度し、明治二十八年に、浄土宗教学本校全科を卒業して、同時に浄土宗内地留学生、浄土宗第一教校教論となった。さらに「浄土新報」の主筆となった。明治三十三年、第一回浄土宗海外留学生としてドイツに留学、ドイツ留学は十一年にわたり、その間、欧文論文八、和文論文二十六を発表して、普賢行願讃諸本の比較研究によってドクトル・フィロソフィーの学位を得て明治四十三年に帰国、帰国後は宗教大学、東洋大学教授となり、芝中学校校長となった。大正十一年、大正新修大蔵経の刊行については、刊行事業を指揮して八十五巻の刊行を果たした。昭和四年、日本仏教学協会を結成した。昭和八年一月二十六日、六十二歳で西光寺で寂した。「社会事業」

や「カルピス」「大東出版社」などは渡辺海旭の命名である。著書には「欧米の仏教」「壺月全集」上・下、「遺文集」などがある。<sup>(12)</sup>

**鈴木大拙**〔すずき だいせつ 貞太郎・大拙 明治3・1870～昭和41・1966〕

臨済宗。明治三年十月十八日生まれ。金沢の儒医鈴木了準の五男、名は貞太郎、生家は臨済宗。明治八年に父を失い、貧困のなかで石川県専門学校付属中学校に入る。明治二十二年に、学制改革で第四高等中学校となり、西田幾多郎らと予科三年に編入したが、家計が苦しく、明治二十四年に退学、東京に出て、東京専門学校（早稲田大学の前身）に学び、鎌倉円覚寺の今北洪川について参禅した。同年、上京した西田の勧めで帝国大学選科に転じた。洪川死去のあと、釈宗演に参禅、明治二十六年に宗演がシカゴ万国宗教会議に出席、これが縁となって、明治二十八年にポール・ケラス「仏陀の福音」を翻訳出版、同年、参禅五年目、臘八接心で見性し、禅者としての立脚を得た。十一年間、アメリカにおり、明治三十三年「大乘起信論」を英訳、明治四十年「大乘仏教概論」を英文で出版、明治四十三年に帰国して、学習院講師、東京帝国大学講師を経て、明治四十三年に、学習院教授、翌年、アメリカのピアトリス・レーンと結婚。大正十年に、大谷大学教授、昭和八年に楞伽經の研究で文学博士、昭和十四年に夫人を失い、戦後、昭和二十一年に、夫妻の蔵書をもとに安宅弥吉の援助で、東慶寺山上に松ヶ岡文庫を設立、カルチャラル・イーストを発刊。昭和二十四年に、文化勲章を受章した。著作は「鈴木大拙全集」全三十巻・別巻二巻がある。<sup>(13)</sup>

**伊藤左千夫**〔いとう さちお 幸次郎・左千夫 元治1・1864～大正2・1913〕

明治期の歌人、小説家。上総生れ。本名は幸次郎。明治法律学校中退。搾乳業を営む傍ら、茶の湯、和歌を学ぶ。明治三三年（一九〇〇）三歳年下の正岡子規に師事し根岸短歌会に参加。子規の没後、三六年写生短歌の牙城「馬酔木」を創刊、続く「アララギ」誌上でも活躍した。また子規庵の山会で写生文を学んだことを基礎として、小説『野菊の墓』（明三九）、『隣の嫁』（明四一）などを執筆した。歌集に『左千夫歌集』（大九）がある。<sup>(14)</sup>

**和田性海**〔わだ しょうかい 鼎・不可得・非可得・対白 明治12・1879～昭和37・1962〕

真言宗僧侶、布教師、高野山真言宗管長。号非可得。明治十二年八月二日兵庫県佐用郡に生る。同二十六年清林寺伊達義禅について得度。同三十五年哲学館卒業。同四十二年真言宗御室派伝道部主任となり、布教誌『みのり』を発行し、大正二年（一九一三）淡路千光寺に住職をつとめ、『慈悲の光』誌を創刊した。高野山金剛峯寺学務部長などをへて、昭和九年（一九三四）高野山大学長、二四年金剛峯寺座主高野山真言宗管長に就任した。同二十九年平井巽、藤田清、亀井宣雄らと月刊『全人』を発行、三十三年同宗布教研究所長となった。その間、布教師として内地から朝鮮、ホノルルやアメリカ本土を巡教し、布教総監をつとめた。著書に『仏教修養講和』『現代思想と真言密教』『大師主義』『大同胞主義』『和田性海講話集』などがある。大僧正。昭和三十七年三月七日没。<sup>(15)</sup>

**小林正盛**〔こばやし しょうせい 正盛・雨峰 明治9・1876～昭和12・1937〕

真言宗豊山派管長。長谷寺第六十六世化主。豊山中学校長。真言宗長者。号は雨峰。茨城県古河市

田口忠八の五男に生まれた。六歳のとき小林と改姓。古河市尊勝院の勝順盛の弟子となり、養育された。その後、茨城県雨引山樂法寺で、中小路聖深について得度し、聖盛となる。のちに正盛と改名した。明治三十年、新義派大学林を卒業、同三十二年、早稲田専門学校を卒業した。同四十年に四国遍路を行い、また高野山の山県玄浄らに出会い、回生した。大正十三年、権田雷斧らとともに中華民国、香港に渡って巡教した。また廬山の第一回世界仏教大会に日本仏教界を代表して参加した。豊山中学校長、豊山派宗務長、豊山大学学監などを歴任し、昭和五年には、豊山派管長・総本山長谷寺第六十六世化主となった。また昭和十年に真言宗長者となり、宮中後七日御修法の大阿を謹修した。埼玉県上里善台寺、栃木県足利市鶏足寺、佐賀県鹿島誕生院の各住職となり、遺骨は以上の三ヶ寺のほかに、奈良県長谷寺、茨城県古河市尊勝院にも分骨された。寂年六十二歳。著書は「真言宗聖典」「秘密禪」「鹿島誕生院復興史」「雲伝神道」など。<sup>(16)</sup>

**結城素明**〔ゆうき そめい 貞松・素明 明治8・1875～昭和32・1957〕

日本画家。本名貞松。明治八年十二月十日東京本所に生る。川端玉章に師事した。同二十五年東京美術学校日本画科に入学し、同三十年卒業したが、同年同校西洋画科に再入学した。三十三年中退し、この年平福百穂らと自然主義を標榜して无声会を創立し毎年展覧会を開いて大正二年（一九一三）まで続いた〔『新仏教』では寄稿のほかに挿画なども担当した——筆者註〕。初期文展で受賞し、帝展では審査員となり、日本芸術院会員となった。大正五年には百穂、鏑木清方らと金鈴社を結成し毎年展覧会を開いた。また昭和十二年（一九三七）には川崎小虎、青木大乘と大日美術院を創立し、公募展を開いた。長い間母校東京美術学校教授をつとめ後進の指導に当たった。戦後は日展にも出品した。その作風は、はじめ写生的な画風を導入したが、ついで装飾風となり、更に中期以後は西洋画的写実に濃彩をほどこした特有の作風となった。代表作『散花』『囀』『薄光』『ポポー果』。著書『東京美術家墓所誌』『伊豆の長八』『菊池容斎』など。昭和三十二年三月二十四日没。<sup>(17)</sup>

## 註

- (1) 吉田久一「明治後期の社会思想と哲学館」『井上円了研究』5号参照。
- (2) 『高嶋米峰自叙伝』198頁。
- (3) 同、203頁。
- (4) 吉田久一『日本近代仏教史研究』吉川弘文館、昭和34年、371頁。
- (5) 『日本仏教人名辞典』新人物往来社、昭和61年、282頁。
- (6) 『日本人名大辞典 現代』平凡社、1979年、631頁。
- (7) 『真宗人名辞典』法蔵館、1999年、126頁。
- (8) 『東洋大学人名録』東洋大学井上円了記念学術センター、1996年、86頁から作成。
- (9) 『日本人名大辞典 現代』411頁。
- (10) 赤松徹真「井上秀天の思想」『龍谷大学論集』434・435号から作成。
- (11) 『日本人名大辞典 現代』209頁。
- (12) 『日本仏教人名辞典』463頁。

- (13) 『日本仏教人名辞典』 249頁。
- (14) 『新潮 日本人名辞典』 新潮社、1991年、173頁。
- (15) 『日本人名大辞典 現代』 854頁。
- (16) 『日本仏教人名辞典』 161頁。
- (17) 『日本人名大辞典 現代』 824頁。



第1表 『新仏教』のページ数

	巻数巻号	ノンブル	ページ数		巻数巻号	ノンブル	ページ数		巻数巻号	ノンブル	ページ数		
明治33 (1900)	第1巻1号	54	54	明治36 (1903)	第4巻1号	94	94	明治39 (1906)	第7巻1号	88	88		
	第1巻2号	108	54		第4巻2号	174	80		第7巻2号	161	73		
	第1巻3号	170	62		第4巻3号	258	84		第7巻3号	249	88		
	第1巻4号	222	52		第4巻4号	346	88		第7巻4号	326	77		
	第1巻5号	270	48		第4巻5号	426	80		第7巻5号	406	80		
	第1巻6号	324	54		第4巻6号	518	92		第7巻6号	482	76		
	合計		324		第4巻7号	602	84		第7巻7号	554	72		
明治34 (1901)	第2巻1号	54	54	明治37 (1904)	第4巻8号	690	88	明治40 (1907)	第7巻8号	644	90		
	第2巻2号	110	56		第4巻9号	774	84		第7巻9号	728	84		
	第2巻3号	172	62		第4巻10号	862	88		第7巻10号	812	84		
	第2巻4号	216	44		第4巻11号	952	90		第7巻11号	886	74		
	第2巻6号	274	58		第4巻12号	1040	88		第7巻12号	952	66		
	第2巻7号	328	54		合計		1040		合計		952		
	第2巻8号	382	54		明治38 (1905)	第5巻1号	80		80	明治41 (1908)	第8巻1号	82	82
	第2巻9号	442	60			第5巻2号	162		82		第8巻2号	162	80
第2巻10号	492	50	第5巻3号	284		122	第8巻3号	228	66				
第2巻11号	548	56	第5巻4号	348		64	第8巻4号	304	76				
第2巻12号	602	54	第5巻5号	430		82	第8巻5号	384	80				
第2巻13号	658	56	第5巻6号	518		88	第8巻6号	462	78				
合計		658	第5巻7号	594		76	第8巻7号	540	78				
明治35 (1902)	第3巻1号	54	54	第5巻8号		672	78	第8巻8号	608		68		
	第3巻2号	108	54	第5巻9号	756	84	第8巻9号	674	66				
	第3巻3号	162	54	第5巻10号	838	82	第8巻10号	744	70				
	第3巻4号	216	54	第5巻11号	926	88	第8巻11号	814	70				
	第3巻5号	274	58	第5巻12号	1000	74	第8巻12号	878	64				
	第3巻6号	330	56	合計		1000	合計		878				
	第3巻7号	384	54	明治39 (1906)	第6巻1号	104	104	明治42 (1909)	第9巻1号	112	112		
	第3巻8号	440	56		第6巻2号	190	86		第9巻2号	202	90		
第3巻9号	496	56	第6巻3号		270	80	第9巻3号		290	88			
第3巻10号	554	58	第6巻4号		346	76	第9巻4号		378	88			
第3巻11号	612	58	第6巻5号		426	80	第9巻5号		468	90			
第3巻12号	666	54	第6巻6号		506	80	第9巻6号		562	94			
合計		666	第6巻7号		586	80	第9巻7号		656	94			
			第6巻8号		662	76	第9巻8号		762	106			
			第6巻9号	740	78	第9巻9号	866	104					
			第6巻10号	814	74	第9巻10号	972	106					
			第6巻11号	892	78	第9巻11号	1066	94					
			第6巻12号	968	76	第9巻12号	1162	96					
			合計		968	合計		1162					

	巻数巻号	ノンプル	ページ数		巻数巻号	ノンプル	ページ数		巻数巻号	ノンプル	ページ数
明治42 (1909)	第10巻1号	104	104	明治44 (1912)	第13巻1号	130	130	大正3 (1914)	第16巻1号	162	162
	第10巻2号	210	106		第13巻2号	244	114		第16巻2号	256	94
	第10巻3号	312	102		第13巻3号	348	104		第16巻3号	354	98
	第10巻4号	406	94		第13巻4号	459	111		第16巻4号	452	98
	第10巻5号	506	100		第13巻5号	568	109		第16巻5号	542	90
	第10巻6号	610	104		第13巻6号	668	100		第16巻6号	626	84
	第10巻7号	716	106		第13巻7号	774	106		第16巻7号	718	92
	第10巻8号	812	96		第13巻8号	872	98		第16巻8号	796	78
	第10巻9号	904	92		第13巻9号	980	108		合計		796
	第10巻10号	988	84		第13巻10号	1068	88		総合計		
	第10巻11号	1068	80		第13巻11号	1190	122				
	第10巻12号	1160	92		第13巻12号	1296	106		臨時増刊号		
合計		1160	合計		1296	第2巻5号	6	6			
明治43 (1910)	第11巻1号	104	104	明治45・大正1 (1912)	第14巻1号	118	118				
	第11巻2号	210	106		第14巻2号	204	86	付録			
	第11巻3号	322	112		第14巻3号	288	84	第6巻7号	106	106	
	第11巻4号	432	110		第14巻4号	376	88	第8巻4号	12	12	
	第11巻5号	542	110		第14巻5号	462	86	第9巻1号	8	8	
	第11巻6号	646	104		第14巻6号	548	86	第9巻2号	18	10	
	第11巻7号	920	274		第14巻7号	630	82	第9巻3号	30	12	
	第11巻8号	1018	98		第14巻8号	712	82	第9巻4号	42	12	
	第11巻9号	1120	102		第14巻9号	790	78	第9巻5号	56	14	
	第11巻10号	1220	100		第14巻10号	888	98	第9巻6号	64	8	
	第11巻11号	1316	96		第14巻11号	966	78	第9巻7号	72	8	
	第11巻12号	1414	98		第14巻12号	1040	74	第11巻1号	115	115	
合計			合計		1040	第12巻1号	108	108			
明治44 (1911)	第12巻1号	108	108	大正2 (1913)	第15巻1号	88	88	第13巻1号	56	56	
	第12巻2号	206	98		第15巻2号	164	76	第14巻1号	62	62	
	第12巻3号	298	92		第15巻3号	250	86	第15巻1号	87	87	
	第12巻4号	402	104		第15巻4号	330	80				
	第12巻5号	502	100		第15巻5号	412	82				
	第12巻6号	594	92		第15巻6号	496	84				
	第12巻7号	692	98		第15巻7号	580	84				
	第12巻8号	790	98		第15巻8号	664	84				
	第12巻9号	892	102		第15巻9号	750	86				
	第12巻10号	996	104		第15巻10号	846	96				
	第12巻11号	1098	102		第15巻11号	926	80				
	第12巻12号	1198	100		第15巻12号	1012	86				
合計			合計		1012						

第2表 『新仏教』の執筆者別掲載回数（回数別の配列は順不同）

NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
1	高島米峰	565	57	三宅雪嶺	13	113	木下尚江	6
2	林古溪	329	58	加藤玄智	12	114	牛涎	6
3	『新仏教』子	299	59	采翠義道	12	115	甲山	6
4	<無記名>	241	60	秀真	12	116	志田素琴	6
5	境野黄洋	167	61	平子鐸嶺	12	117	常住金剛	6
6	田中我観	130	62	古川流泉	12	118	新佛教徒同志会	6
7	杉村縦横	114	63	融道玄	12	119	大獅子吼林	6
8	川村五峰	112	64	青侍	11	120	高楠順次郎	6
9	井上秀天	87	65	加藤弘之	11	121	千原圓一	6
10	橋恵勝	75	66	久津見蔵村	11	122	辻圓證	6
11	加藤咄堂	69	67	三子	11	123	西脇秋水	6
12	清水友次郎	67	68	萩原雲来	11	124	梁山泊	6
13	柘植秋畝	65	69	石川三四郎	10	125	本間久	6
14	渡邊海旭	60	70	井上円了	10	126	ミス・プリント	6
15	鈴木大拙	58	71	岡田蝶兒	10	127	露須晃	6
16	融道玄	52	72	川村坦應	10	128	鷲峰	6
17	伊藤左千夫	49	73	金義鑑	10	129	石井柏亭	5
18	和田覚二	49	74	知久峡雨	10	130	市川達讓	5
19	小林雨峰	43	75	関撲堂	10	131	伊藤痴遊	5
20	正富汪洋	41	76	それがし	10	132	稲葉君山	5
21	一五坊	31	77	妻木直良	10	133	大住生	5
22	三輪政一	31	78	常盤大定	10	134	角田柳作	5
23	柳南	31	79	ぬたよみ	10	135	幹事	5
24	島地大等	30	80	平井黙堂	10	136	木南	5
25	土屋詮教	28	81	堀米江處	10	137	木村潮月	5
26	辰巳小次郎	27	82	山田三子	10	138	峡雨	5
27	二楞學人	27	83	伊藤證信	9	139	去水	5
28	川村生	26	84	閻外魔	9	140	黒山鬼窟	5
29	川村十二郎	25	85	大住嘯風	9	141	孤村	5
30	長谷川病院	25	86	桑原弦月	9	142	三奇山人	5
31	守山畝董	25	87	潮月生	9	143	鈴木券太郎	5
32	小池秋草	24	88	とうばん	9	144	鈴木碧川	5
33	堺利彦	24	89	列外	9	145	第二訪問子	5
34	石澤氷湖	22	90	淡霞女史	8	146	野々村梅所	5
35	舟橋水哉	22	91	大屋徳城	8	147	原千代	5
36	廣井辰太郎	21	92	小原吐峰	8	148	番外	5
37	大内青巒	20	93	小松亮	8	149	古谷春峰	5
38	中村諦梁	20	94	三穀坊	8	150	訪問子	5
39	磯村野風	18	95	平原暹三郎	8	151	ボルテール	5
40	伊藤政女	18	96	藤井瑞枝	8	152	前田慧雲	5
41	釋清潭	18	97	不流川	8	153	松本文三郎	5
42	古木つね子	18	98	毛利柴庵	8	154	無角堂	5
43	關撲堂	17	99	来馬琢道	8	155	無冠太夫	5
44	天馬桃子	16	100	佐治實然	8	156	山上、泉	5
45	石井光躬	15	101	當番	8	157	和素佛	5
46	大山由朝	15	102	安藤鐵腸	7	158	蔵眞	5
47	妙頑禪尼	15	103	大住舜	7	159	皓林	5
48	村上專精	15	104	子猷	7	160	皓林暁雲	5
49	結城素明	15	105	天骨道人	7	161	アカツキ	4
50	暮村隠士	14	106	無得	7	162	暁霜	4
51	千代女	14	107	悠南子	7	163	石川成章	4
52	古田ぬき子	14	108	阿部全鼎	6	164	伊藤枯野	4
53	忽滑谷快天	14	109	井上哲次郎	6	165	牛山充	4
54	膽山	14	110	小野玄妙	6	166	お伽法師	4
55	足立栗園	13	111	貝塚澁六	6	167	香山	4
56	茂春	13	112	菊地松堂	6	168	桂樹庵主人	4

NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
169	神村興三	4	227	三並良	3	285	赤見露磨	2
170	坂井衡平	4	228	三文房	3	286	あき子	2
171	坐佛	4	229	志乃武	3	287	旭山人	2
172	志田義秀	4	230	白柳秀湖	3	288	安藤枯山	2
173	新佛教同志会	4	231	素琴	3	289	池田荒北	2
174	竹内まさ	4	232	大寒林主人	3	290	池田嶺雪	2
175	津田敬武	4	233	竹友	3	291	池田和市	2
176	同人	4	234	丁埃生	3	292	石澤夫人	2
177	中島徳藏	4	235	ちりのや	3	293	石原笠軒	2
178	中島半次郎	4	236	手島益雄	3	294	一二三	2
179	中島力造	4	237	鐸嶺	3	295	一菩薩	2
180	新田溪村	4	238	童謠子	3	296	逸木清流	2
181	望天窟主人	4	239	戸部隆吉	3	297	いづみ	2
182	野々村直太郎	4	240	豊田孤寒	3	298	井上暮雲	2
183	野風浪客	4	241	虎涙	3	299	いばら	2
184	排平生	4	242	夏子	3	300	今兼好	2
185	長谷川基	4	243	なにがし	3	301	上田圓照	2
186	花田衆甫	4	244	鯨瓢房	3	302	宇宙一妙子	2
187	文漪	4	245	南條文雄	3	303	馬陵	2
188	堀田暁霜	4	246	西澤雲浦	3	304	梅原通菴	2
189	堀田皓林	4	247	日東子	3	305	江尻正一	2
190	碧湖	4	248	吞佛	3	306	大橋文之	2
191	南八道人	4	249	博山	3	307	大宮孝潤	2
192	宮崎八百吉	4	250	莫非	3	308	尾戸長熊	2
193	見山望洋	4	251	八十八生	3	309	小野藤太	2
194	無懷	4	252	禾山生	3	310	会員	2
195	矢澤禾山	4	253	仁劍	3	311	甲斐勝美	2
196	伏峰	4	254	平井金二	3	312	斐川生	2
197	ゆかり子	4	255	廣野破鈴	3	313	格堂	2
198	楽々坊	4	256	福井學圃	3	314	かけろ	2
199	濟弘道	4	257	不空	3	315	加藤去水	2
200	霧村	4	258	藤井宣正	3	316	加藤波水	2
201	藍川居士	3	259	望東	3	317	香取秀眞	2
202	秋田生	3	260	螢澤陳人	3	318	河瀬義雄	2
203	安達太郎	3	261	ほづま	3	319	川瀬義雄	2
204	委員	3	262	町田柳塘	3	320	川村東村	2
205	泉頼周	3	263	松村介石	3	321	菊地長風	2
206	植松涙仙	3	264	摩天鶴	3	322	きくつ	2
207	迂散苦斎	3	265	まみね	3	323	儀式子	2
208	浮田和民	3	266	無間佛	3	324	岸邊福雄	2
209	ウツギ	3	267	無名子	3	325	木母庵	2
210	梅田千界	3	268	安江不空	3	326	九一生	2
211	江越桐軒	3	269	柳塘居士	3	327	局外生	2
212	大住嘯風	3	270	吉田きぬ子	3	328	清澤満之	2
213	大塚甲山	3	271	樂尊	3	329	キンバルト	2
214	大本小雨	3	272	六尺坊	3	330	くしだ生	2
215	小野二楞	3	273	螺蛤生	3	331	楠龍造	2
216	金子凡鳥	3	274	黙聲菴主	3	332	溪川	2
217	勝水瓊泉	3	275	瓊泉	3	333	擊碎生	2
218	河西芳郎	3	276	皓林下人	3	334	甲山乙水樓	2
219	吉祥坐佛	3	277	關透	3	335	幸徳秋水	2
220	雲居	3	278	飄々子	3	336	古柏陳人	2
221	黒ぼし	3	279	『中外日報』	2	337	虚々翁	2
222	香山	3	280	『新佛教』子	2	338	九日坊	2
223	甲良山人	3	281	愛溪	2	339	故島地雷夢	2
224	古葉	3	282	愛亭子	2	340	後藤夏子	2
225	小林秀南	3	283	愛讀生	2	341	後藤肅堂	2
226	澤柳政太郎	3	284	青柳有美	2	342	五陵	2



NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
343	此風	2	401	安名尊止	2	459	曉聲子	1
344	権田雷斧	2	402	山崎兼子	2	460	赤沼信東	1
345	斎藤唯信	2	403	山本九曇	2	461	秋雨生	1
346	さがみの守	2	404	夢醒	2	462	秋子	1
347	佐々木信綱	2	405	與謝野寛	2	463	秋津鶴堂	1
348	滋賀愛溪	2	406	楽々庵	2	464	呆然大徳	1
349	島地嘿雷	2	407	りせ	2	465	秋野静	1
350	釈宗演	2	408	龍骨	2	466	秋南生	1
351	十五名家	2	409	侶松女史	2	467	晃陽生	1
352	主任代理	2	410	老人庵	2	468	浅井弔星	1
353	小我觀	2	411	斯乃文子	2	469	嘲花生	1
354	書記	2	412	畝董	2	470	朝露生	1
355	白井成允	2	413	枇把山人	2	471	朝永三十郎	1
356	白百合女	2	414	嘲佛	2	472	丑謳生	1
357	旋風打	2	415	擔當記者	2	473	阿星天棧	1
358	高島素之	2	416	關野貞	2	474	汗齊	1
359	他宗漢	2	417	餘興係	2	475	頭累	1
360	陀羅仁助	2	418	鶯巷散史	2	476	穴賢	1
361	蝶克	2	419	『基督教世界』	1	477	姉崎正治	1
362	常住金剛	2	420	『護教』	1	478	あのかたら	1
363	妻木笠浦	2	421	『東京朝日新聞』	1	479	阿々	1
364	田園子	2	422	『付録』	1	480	怪鳥坊	1
365	天爪仙人	2	423	□〒■	1	481	鮎村小逸	1
366	天門	2	424	△□□生	1	482	新井石禅	1
367	投書	2	425	△△△	1	483	あららぎ生	1
368	徳富蘇峰	2	426	△△△△	1	484	有賀無峰	1
369	富田敷純	2	427	△△生	1	485	併呑樓主人	1
370	内藤湖南	2	428	△○□生	1	486	安居	1
371	中尾教巖	2	429	△○生	1	487	安魔	1
372	日漸童子	2	430	△〒▲	1	488	安民	1
373	日東子	2	431	○△生	1	489	安藤慶	1
374	野風	2	432	○○○	1	490	阿耨多羅	1
375	長谷部隆諦	2	433	○○●	1	491	阿鏤法師	1
376	花守翁	2	434	○○生	1	492	イー・エー・ゴルドン	1
377	濱口大愚	2	435	百恵	1	493	飯塚雲水	1
378	光山生	2	436	一五坊	1	494	池田生	1
379	ひげ	2	437	一雄	1	495	池田莊北	1
380	久子	2	438	A. S. 生	1	496	石井まみね	1
381	左衽漢	2	439	G. K. 生	1	497	石上布留譯	1
382	百穂	2	440	KY 生	1	498	礎山	1
383	臥牛	2	441	Masatomi Oyō	1	499	石原喜久太郎	1
384	風来坊	2	442	N・W	1	500	石松紫陽	1
385	深編笠	2	443	O. C. 生	1	501	石衹漢	1
386	不空金剛	2	444	S. O. 生	1	502	泉	1
387	不空道人	2	445	T. Z. 生	1	503	泉湖村	1
388	福来友吉	2	446	XY	1	504	泉道雄	1
389	古川越山	2	447	X 光線	1	505	一社会主義者	1
390	古川大斧	2	448	藍水	1	506	一信者の子	1
391	ふるつやとひと	2	449	愛住たか子	1	507	一静生	1
392	古佛	2	450	間間子	1	508	一評議員	1
393	平凡漢	2	451	愛煤生	1	509	市村哲人	1
394	ぼく	2	452	昨々	1	510	一山三文房	1
395	無名氏	2	453	青式部	1	511	一夢	1
396	恵美孝三	2	454	青大将	1	512	一寸四奈例沼命	1
397	元良勇次郎	2	455	青瓢箪	1	513	伊藤銀月	1
398	森近運平	2	456	青歸	1	514	田舎から	1
399	諸名士	2	457	赤坂生	1	515	田舎漢	1
400	矢澤亦川	2	458	明石の浦人	1	516	稻香生	1

NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
517	稲山麓人	1	575	おきな	1	633	木田餘鶴仙	1
518	井上智亮	1	576	補員	1	634	吉谷覚壽	1
519	斐川生	1	577	奥の里人	1	635	狐唾	1
520	意表外	1	578	小崎弘道	1	636	奇妙山人	1
521	伊部良全	1	579	小澤打魚	1	637	木村生	1
522	今福忍	1	580	乙亥庵主人	1	638	九一居士	1
523	今道心	1	581	男一匹	1	639	九曇	1
524	今徂徠	1	582	乙部吞海	1	640	久良岐	1
525	岩槻生	1	583	乙水生	1	641	胡笳怨詠	1
526	岩野清	1	584	小野田文助	1	642	愕々	1
527	上田蟻善	1	585	小原溪雄	1	643	狂影生	1
528	上戸尊者	1	586	改善生	1	644	喜代子	1
529	上野専一	1	587	怪疑性	1	645	巨竹道人	1
530	植村正久	1	588	香魚村逸	1	646	桐軒	1
531	植村宗光	1	589	柿菴	1	647	木邊璞	1
532	埋皮生	1	590	角帽子	1	648	近角常觀	1
533	牛	1	591	角魔	1	649	金華山人	1
534	薄井秀一	1	592	角魔仙	1	650	金生	1
535	白田桜村	1	593	影法師	1	651	融友世	1
536	内田魯庵	1	594	画省不空	1	652	木場久子	1
537	内村鑑三	1	595	枯亭	1	653	来馬琢道	1
538	馬洗老牛	1	596	風仙子	1	654	苦々子	1
539	馬癖生	1	597	片桐敬太郎	1	655	臭川生	1
540	海旭	1	598	模岳生	1	656	草の舎	1
541	梅田謙敬	1	599	片山國嘉	1	657	楠嶋文衛	1
542	梅原龍北	1	600	采尺三穀	1	658	管野須賀子	1
543	宇山畝董	1	601	蟹江義丸	1	659	くまのて	1
544	浦二生	1	602	金子筑水	1	660	雲遊	1
545	雲居	1	603	金子念佛	1	661	雲影	1
546	江村	1	604	枯野	1	662	雲去来	1
547	得能文	1	605	枯骨生	1	663	雲の洞人	1
548	江原素六	1	606	蒲群排平	1	664	クリスチヤン	1
549	海老名弾正	1	607	雷風子	1	665	栗毬生詠	1
550	エミール・ゾラ	1	608	雷狂生	1	666	黒川生	1
551	恵美忍成	1	609	亀谷天尊	1	667	黒田眞洞	1
552	江湖道人	1	610	鴨川生	1	668	黒足天	1
553	園香	1	611	烏の子	1	669	黒田龍穩	1
554	演説部主任	1	612	川合清丸	1	670	黒法師	1
555	遠藤無逸	1	613	河東隠士	1	671	桑木嚴翼	1
556	遠藤隆吉	1	614	渴耳	1	672	桑原鷲藏	1
557	王子喬	1	615	川村	1	673	桑門藻太次	1
558	おうそん	1	616	川村直哉	1	674	経緯翁	1
559	凸坊	1	617	川村平次郎	1	675	桂樹庵主人	1
560	大隈重信	1	618	閑居仙	1	676	結城素明	1
561	大食夢王	1	619	閑人	1	677	缺伸道士	1
562	大澤天仙	1	620	環子	1	678	玄牛坊	1
563	大住鮎嘯	1	621	環翠	1	679	兼好法師	1
564	大谷正信	1	622	感心坊	1	680	源太	1
565	大谷繞石	1	623	菅田雪園	1	681	現代諸大家	1
566	太田覺眠	1	624	頑々老人	1	682	元老子	1
567	大葉秋子	1	625	環翠子	1	683	弦聲	1
568	大道長安	1	626	機外	1	684	恒心生	1
569	丘木子	1	627	木偶守	1	685	校正係	1
570	岡田機外	1	628	喜口笑堂	1	686	幸田露伴	1
571	岡野迂拙	1	629	義子	1	687	購読者	1
572	小川直子	1	630	北條蓮慧	1	688	合評	1
573	小川平吉	1	631	北嶺	1	689	甲庵	1
574	降吉	1	632	北村教嚴	1	690	志川素琴	1

NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
691	志わ	1	749	死猫兒	1	807	杉村無懷	1
692	小雨丸	1	750	忍軒	1	808	素峽流	1
693	子猿	1	751	澁平生	1	809	鈴木宗突	1
694	執金剛	1	752	島田三郎	1	810	鈴木醇菴	1
695	小嶋含笑	1	753	島地	1	811	鈴木大黃	1
696	故清水黙爾	1	754	島地雷夢	1	812	スプチリス	1
697	越山樵夫	1	755	島の童	1	813	すみいれぐさ	1
698	五寸坊	1	756	清水嘿爾	1	814	せ	1
699	古代盲僧	1	757	迦葉尊者	1	815	静観生	1
700	骨道人	1	758	釈雲照	1	816	成邦	1
701	古堂生	1	759	釈子定規	1	817	清流生	1
702	孤独樂人	1	760	邪禪房	1	818	せむしの翁	1
703	ことみづ	1	761	社同人	1	819	千界野狐	1
704	このこ	1	762	十一名家	1	820	千亦	1
705	小林秀有	1	763	周頑隠士	1	821	善魔子道	1
706	小原愼三	1	764	執金剛	1	822	千山萬水樓主	1
707	小原吐峰	1	765	秀湖生	1	823	造化	1
708	故藤井宣正	1	766	十四名家	1	824	莊北	1
709	古物	1	767	宿八	1	825	掃石	1
710	米仙輝石	1	768	樹下石上	1	826	侶松女史	1
711	孤浪生	1	769	出席幹部	1	827	疎嵐	1
712	故龍池天門	1	770	主任	1	828	統経緯翁	1
713	今昔閑人	1	771	受持記者	1	829	疎住	1
714	権藤震二	1	772	受持之命	1	830	第三子	1
715	斎藤不老僂	1	773	所謂元老	1	831	諦信房	1
716	斎藤三枝	1	774	諸家	1	832	大天狗	1
717	斎藤模岳	1	775	所謂元老	1	833	第二十八子	1
718	齊東生	1	776	紹介子	1	834	大福伏峰	1
719	濟弘道	1	777	小片把王	1	835	タエモ二	1
720	佐伯興人	1	778	小冠者	1	836	隆	1
721	坂井雲母	1	779	祥雲確悟	1	837	高島平三郎	1
722	堺利彦	1	780	少女	1	838	高島皓園	1
723	坂本四方太	1	781	小生	1	839	高司市三	1
724	さぐも	1	782	冗舌漢	1	840	高橋竹迷	1
725	櫻郷	1	783	小天狗	1	841	耕	1
726	櫻田孤雲	1	784	浄念房	1	842	耕陽子	1
727	櫻田輝	1	785	正富由太郎	1	843	耕陽谷人	1
728	桜村	1	786	常任金剛	1	844	蓄音子	1
729	去水魔	1	787	小葉子	1	845	武田芳三郎	1
730	雑誌抄出	1	788	小法師	1	846	竹の里人	1
731	悟苦道人	1	789	シヨキ	1	847	竹の屋主人	1
732	佐野如雪	1	790	白頭尊者	1	848	竹の屋次郎	1
733	沙城	1	791	白頭道者	1	849	竹聲子	1
734	澤天夫	1	792	白然曉霜	1	850	田子碩	1
735	斬馬劍	1	793	白東	1	851	叩大工	1
736	三玄郎	1	794	白ぼし	1	852	立間生	1
737	三三生	1	795	白面郎	1	853	龍池滴露	1
738	三人行者	1	796	白山魔窟	1	854	田鶴齡	1
739	三六	1	797	深山静也	1	855	建部琢吾	1
740	爾庵	1	798	新基督	1	856	田中智學	1
741	潮庵	1	799	しん子	1	857	田中枕月	1
742	四方生	1	800	しんしゅうそう	1	858	田中玲瓏	1
743	重高和漢郎	1	801	眞珠子	1	859	たに子	1
744	繁哩生	1	802	丹朱	1	860	谷中隠士	1
745	師大下天	1	803	新佛教徒	1	861	狸和尚	1
746	下村諦信	1	804	新平民子	1	862	狸婆子	1
747	叱咤太子	1	805	新町學人	1	863	田林	1
748	信濃生	1	806	爾菴	1	864	旅鳥	1

NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
865	旅僧	1	923	富澤生	1	981	梅鈴	1
866	旅の人	1	924	巴字漢	1	982	馬鹿世	1
867	たま子	1	925	友世	1	983	伯昏督人	1
868	担翁	1	926	富山人	1	984	白山莊主人	1
869	たんか	1	927	虎石恵實	1	985	猿の女	1
870	丹霞	1	928	ドレミ	1	986	莫非先生	1
871	短袖子	1	929	徒勞尊者	1	987	莫忘想	1
872	千界	1	930	吐峰	1	988	白龍	1
873	近重物庵	1	931	頓庵	1	989	破太鼓	1
874	千河岸貫一	1	932	鈍庵	1	990	長谷部水哉	1
875	痴遊	1	933	鈍刀痴人	1	991	八尋華亭	1
876	知久黛郎	1	934	鈍々亭	1	992	八波則吉	1
877	千葉紅露生	1	935	珍漢	1	993	服部宇之吉	1
878	中学教師	1	936	頓珍漢	1	994	花守の翁	1
879	中我觀	1	937	吞佛	1	995	濱子谷子	1
880	千代	1	938	中川忠順	1	996	吐峰	1
881	聴者某	1	939	中谷生	1	997	林源三	1
882	長袖子	1	940	中西たか	1	998	春岱	1
883	燈臺下人	1	941	長根禪提	1	999	春峰生	1
884	長伯	1	942	中村鼓峰	1	1000	半禪	1
885	蝶夢生	1	943	中村超	1	1001	波穹道人	1
886	蝶兒	1	944	中村權六	1	1002	非委員	1
887	塵外生	1	945	中村蓊村	1	1003	備後四郎	1
888	塵の舎	1	946	長劍生	1	1004	非蛙庵圭	1
889	塵の舎くるふ	1	947	名古屋生	1	1005	東山生	1
890	塵の舎主人	1	948	鯨菴生	1	1006	東山人	1
891	陳芬漢	1	949	撫松子	1	1007	比企尊者	1
892	陳芬閑人	1	950	波旬	1	1008	樋口勘次郎	1
893	陳芬翰	1	951	涙仙	1	1009	翠篁閑人	1
894	月村	1	952	涙仙等	1	1010	日竹居士	1
895	土屋知美	1	953	波水	1	1011	左牟子	1
896	角田柳作	1	954	菜村	1	1012	ひとし	1
897	坪内雄蔵	1	955	なよたけのこ	1	1013	人見宜善	1
898	鶴聲堂主人	1	956	難陀迦尊者	1	1014	人見直善	1
899	醉非人	1	957	難陀羅法師	1	1015	非肉子	1
900	亭の主人	1	958	二・〇	1	1016	非莫	1
901	出稼老圃	1	959	新島守	1	1017	ひばりの子	1
902	適莫	1	960	二三人	1	1018	秘總生訳	1
903	哲人	1	961	西依一六	1	1019	平井龍華	1
904	デモ坊	1	962	西岡宜軒	1	1020	平子鈴幌	1
905	デルグリ生	1	963	西人東客	1	1021	平嶺鐸子	1
906	天下大師	1	964	西谷順誓	1	1022	廣瀬窓外	1
907	天下の居候	1	965	二〇生	1	1023	ファウスト	1
908	天爪道人	1	966	新田龍眼	1	1024	部員	1
909	天屯迂人	1	967	新渡戸稲造	1	1025	風天子	1
910	天籟生	1	968	二本樹大食夢王	1	1026	不可解生	1
911	童謠子	1	969	日本橋の住人	1	1027	深作安文	1
912	洞禪	1	970	如痴連	1	1028	富貴長命樓主	1
913	同志	1	971	根岸八十八	1	1029	臥牛生	1
914	同情生	1	972	根岸彌祖八	1	1030	不空居士	1
915	投書數篇	1	973	吞伊	1	1031	不空潛夫	1
916	燈臺下人	1	974	野狐禪	1	1032	不合理坊	1
917	融道玄	1	975	吞空	1	1033	藤岡勝二	1
918	得能文	1	976	のぶ子	1	1034	藤田天民	1
919	とし子	1	977	パーク	1	1035	富士見園主人	1
920	獨楨子	1	978	灰迦羅漢	1	1036	不染	1
921	咄堂	1	979	敗鼓道人	1	1037	不空	1
922	利根小次郎	1	980	拝聴生	1	1038	普林特	1



NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数	NO.	執筆者名	掲載回数
1039	佛基生	1	1097	南木摩天郎	1	1155	山脇夕波	1
1040	佛教徒有志大会	1	1098	三舟生	1	1156	ヤンバラバ	1
1041	不動明王	1	1099	宮内盛直	1	1157	悠南子	1
1042	不如人	1	1100	宮川すみ子	1	1158	有耶無耶生	1
1043	冬花逸人	1	1101	宮川壽美子	1	1159	幽水	1
1044	古弦	1	1102	妙心道人	1	1160	ゆかり女	1
1045	古村	1	1103	みをつくし	1	1161	ゆき子	1
1046	文	1	1104	無外生	1	1162	ゆめやま	1
1047	文佛	1	1105	無角生	1	1163	横尾幽石	1
1048	文猗	1	1106	無可得	1	1164	横濱賀易生	1
1049	平原暹三郎	1	1107	無我坊	1	1165	よし子	1
1050	紅翠生	1	1108	むぐら	1	1166	吉田生	1
1051	ヘフチング	1	1109	無邪思坊	1	1167	淀野耀淳	1
1052	へぼん	1	1110	無中棹座學人	1	1168	四来坊	1
1053	編者	1	1111	無何有	1	1169	らかん	1
1054	吠呆	1	1112	向鉢巻生	1	1170	洛東山人	1
1055	某	1	1113	無平無灰齊	1	1171	龍池天門	1
1056	某子	1	1114	無名生	1	1172	龍北迂人	1
1057	傍聴子	1	1115	無有先生	1	1173	隆吉	1
1058	傍聴生	1	1116	村軒	1	1174	陵仙洞生	1
1059	望天學人	1	1117	紫虹会	1	1175	林晚	1
1060	ボカンアーレ	1	1118	紫紅	1	1176	涙仙	1
1061	僕	1	1119	村竹次郎	1	1177	冷袖	1
1062	ボク	1	1120	村太郎	1	1178	例の元老	1
1063	ポット出	1	1121	無聲山房主人	1	1179	靈峰	1
1064	ポツポガナダ	1	1122	無鍔砲生	1	1180	冷袖	1
1065	ほつま	1	1123	明暗子	1	1181	唾翁生	1
1066	堀田延	1	1124	恵美志乃武	1	1182	唾哈生	1
1067	ほんだ生	1	1125	メフィスト	1	1183	老楠坊	1
1068	本多日生	1	1126	もく庵	1	1184	老探偵	1
1069	本多庸一	1	1127	黙鈴生	1	1185	露骨	1
1070	魔道仙	1	1128	餅搗	1	1186	若林瓢々乎	1
1071	曲腰老	1	1129	求廉子	1	1187	若原輝彦	1
1072	まさ女	1	1130	桃太	1	1188	鷲尾木牛生	1
1073	貧しき先生より	1	1131	桃太郎	1	1189	和田寛二	1
1074	松軒生	1	1132	守山寛	1	1190	わたくし	1
1075	松下禪尼	1	1133	守山臥董	1	1191	私自笑齋	1
1076	松本彦次郎	1	1134	門外漢	1	1192	私畝山人	1
1077	松廼舎	1	1135	門掃文	1	1193	渡邊南隱	1
1078	マハーマーラ	1	1136	役人	1	1194	和唐兒	1
1079	黛郎	1	1137	安本丹	1	1195	和深編笠	1
1080	丸井圭次郎	1	1138	やとひと	1	1196	和道実	1
1081	希山市隠	1	1139	柳塘	1	1197	和幸生	1
1082	希山沙爾	1	1140	藪医者	1	1198	をの子	1
1083	み	1	1141	破蓮痴漢	1	1199	仝人	1
1084	右萬夫	1	1142	藪髯	1	1200	安江不空	1
1085	右絃	1	1143	山内晋卿	1	1201	禾刀	1
1086	右衽漢	1	1144	山階清剛	1	1202	禾山子	1
1087	三子	1	1145	山階日漸	1	1203	金義艦	1
1088	湖林芳郎生	1	1146	山口孤劍	1	1204	石林春畝	1
1089	水哉子	1	1147	山下江村	1	1205	長谷川基	1
1090	水也	1	1148	山下仲次郎	1	1206	土屋詮教	1
1091	水野梅曉	1	1149	山田政之助	1	1207	藤岡勝二	1
1092	道聴子	1	1150	山月庵主	1	1208	膽山	1
1093	三井甲之	1	1151	山房翁	1	1209	禿山	1
1094	三橋生	1	1152	山本直良	1	1210	簸川	1
1095	三舟生	1	1153	山本林右	1	1211	麻溪道人	1
1096	身毒子	1	1154	山脇貞夫	1	1212	奎兵衛	1

NO.	執筆者名	掲載回数
1213	豫備	1
1214	兒玉昌	1
1215	咄々子	1
1216	嘯風生	1
1217	嚴本善治	1
1218	圖浮羅	1
1219	圖南	1
1220	毀褒外	1
1221	彈呵佛	1
1222	懶山人	1
1223	擔外郎	1
1224	擔當番	1
1225	變哲生	1
1226	旄頭星	1
1227	默泉	1
1228	瓠軒	1
1229	當番幹事	1
1230	當番記者	1
1231	當番代理	1
1232	礪川隱士	1
1233	稻村	1
1234	稻山麓人	1
1235	笄梁	1
1236	篁隱生	1
1237	總鈍臭	1
1238	繞石	1
1239	舊平民子	1
1240	萍寄	1
1241	觸蠻道人	1
1242	諷刺係	1
1243	遲蒔生	1
1244	釋宗演	1
1245	鐵腸生	1
1246	頸城耕人	1
1247	鶺鴒	1
1248	鹽谷貫雄	1
1249	神原慈天	1
1250	神村興三	1
1251	伝婆阿	1
1252	悞普霖	1
1253	掀雲衲	1
1254	蟋蛄山人	1

## The Supporters of the "New Buddhism" in Meiji Japan

MIURA Setuo

### Abstract

The movement of "New Buddhism", which was pronounced in the late Meiji period by the Association of Buddhist Puritans (later renamed as Association of New Buddhists), had a great impact on Japanese public opinion at that time. The central activity of the movement was the publication of the journal "New Buddhism", in which a wide range of statements were published characterized by a critical stance towards the times. By analyzing the table of contents of "New Buddhism" this article examines the supporters of the movement based on statistical data.

**Keywords:** "New Buddhism" (*Shin bukkyō*), Association of Buddhist Puritans (*Bukkyō seito dōshi kai*), Association of New Buddhists (*Shin bukkyō to dōshi kai*), Buddhist movement in the Meiji period (*Meiji no bukkyō undō*)